

# 「私たちの命 見捨てないでください」

ヘルパーの人口を増やそう！座り込みをおこないます！

呼びかけ人代表 小山内 美智子

場所：札幌市役所前

日時：2017年11月1日（水）午後1時～2時30分まで

重度の障がい者たちは親がいなくなったとき、山奥にある施設に行かざるを得ません。1977（昭和52）年、私たちはどんなに障がいが高くても一般の地域で暮らしたい、という夢をもち、障がい者が集まり一軒家を借りて合宿をおこないました。その結果、自立生活ができることを社会に訴えてきました。学生さんや地域住民の人がボランティアとして、私たちを支えてくれました。この運動から、日本でもヘルパー制度が始まったといえるでしょう。

しかし10年ほど前から、徐々に全国でヘルパーが不足するようになり、障がい者たちはケアを受ける時間数をもらっても、その通りにはケアを受けられない状態となっています。トイレに行きたくなると困るので、お水さえ控えているのが現実です。

札幌市民の皆さまは、どれくらいこの大変な事情をご存知でしょうか。施設では、高齢者や障がい者が虐待を受けたり、殺されたりしています。この現実をよく考えてください。

ヘルパー制度は、家の中で介護を受けるのがほとんどです。障がい者は、ヘルパーが来ていない時間には、就労支援事業所やデイサービスなどに毎日行かざるを得ません。障がい者の中には、一般企業や学校に行くことができる人もいますが、ヘルパーの人数が圧倒的に少なく、また派遣の時間が少ないため、夢を捨てざるを得ない人もいます。

また現代のヘルパーさんたちは、仕事に対しての「やりがい」や「夢」が持てないのが現実です。障がい者とヘルパーさんがともに喜び合い生きるためには、一緒に学校へ行ったり仕事に行ったり、旅行やピクニックに行ったりすることが大切だと思います。ヘルパーさんと一緒に働き学んでいく時間ができたなら、お互いに楽しくなったり尊敬が生まれたり、そばにいる人たちもヘルパーの仕事が魅力的にみえ、一緒にやりたくなるかもしれません。

ヘルパーの給料だけを上げて解決しません。障がい者たちも色々なところに行き、仲間たちに語りかけたり、講演会を開いたり、自分のできることをしなければ、ヘルパーと障がい者は、対等の関係になれません。両方の技能向上（スキルアップ）が大切だと思います。

札幌市はモデルケースとして急いでヘルパーの人口を増やす対策を取るよう、一緒に訴えましょう。

市民の皆さんに知っていただきたいので、私たち障がい者はヘルパーさんと一緒に、札幌市役所の前で座り込みをおこないます。「ヘルパーの人口を増やし、自由に生きようではないか」という掛け声でおこないたいと思います。興味のある方はぜひいらしてください。どなたでも参加は自由です。

## < 要望 >

1. ヘルパーの処遇を上げ、多くの人が正社員として働ける環境をつくる
2. ヘルパーは障がい者が働くときのケアも可能にする
3. 各教育機関に障がい者講師を雇用する
4. 医療や福祉系学生はヘルパー実習を必ずおこなう
5. ヘルパーをおこなうひとり親家庭には24時間対応の託児所を無料で提供する

秋元克広札幌市長と各政党の市議会議員の方々にも、これらの要望について文書にてお答え願います。

